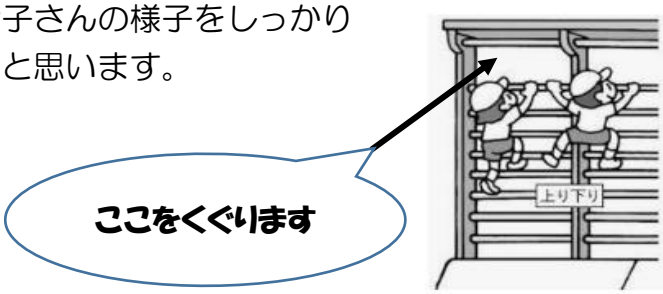
校長室だより

令和３年７月　９日
№１２

まだ梅雨空が続いていますね。湿度とともに気温も高くなってきており熱中症にも気を付けたい時期です。熱海市の土石流や山陰地方の線状降水帯の豪雨などで大きな被害が出ています。こうした天災は予測することが難しいですが、ハザードマップの確認や、もしものときの準備など怠りなくやっておきたいですね。被災地の早い復旧を祈りたいと思います。

先日、小学部のある学年の体育を見学させていただきました。この日は肋木（ろくぼく）と跳び箱でした。半世紀前、子どものころの私だったら「どうやってさぼろうか…」と考えたであろう内容です。球技は大好きでしたが、この器械体操系は苦手で、「今日の体育は鉄棒か…そうだ、お腹が痛くなったことにしよう…」というような子どもでした。それはさておき、さてこの学年の子どもたちは…。

音楽に合わせてストレッチ系の準備体操の後、クラスごとに跳び箱と肋木に分かれて始まります。跳び箱のクラスでは、さすがに跳び箱をさっと飛び越すことはまだ難しいですが、先生の指示をよく聞いて、手をしっかりついて開脚で台上に乗り、ずりずりとお尻を動かして飛び越え、着地からのポーズ。お子さんによっては少し助走をつけて飛び乗る子もいますし、少しずつ足をあげて台に乗る子もいます。それぞれの目標やねらいに合わせて順にチャレンジしていきます。最後のポーズはみんな格好よく決まっていました。担任の先生に「校長もどうですか？」と勧められましたが、めっそうもない…。

肋木のクラスは下から肋木を登って、上の方の木の入っていない空間をくぐり、向こう側に出て降りる（わかります？説明が下手ですみません）という難しい技に挑戦です。私も以前、本校で子どもと一緒にやった覚えがありますので、１５年くらい前まではできていたんだな…きっと。今はどうかというのは愚問というものです…。身軽にさっと登り、狭い隙間を上手にくぐる子もいれば、先生にお尻を支えてもらってがんばる子もいます。その中で少し体格のいいお子さんが挑戦。なんとか上まで行きますが、なかなかくぐることが難しい…。何度かチャレンジしましたが、今回はそこまで。でも、あきらめないでがんばったね、と友達や先生から拍手がわきます。その後、お友達が挑戦しうまくクリア。それを見ていた先ほどのお子さん、さっと手をあげて「もう一度やりたい」！自分から肋木に駆け寄って登り始めます。はじめからやる気満々なのが、見ていてもわかります。上まで登ると、先ほどはクリアできなかった隙間に体を滑り込ませ、見事にクリア。向こう側への着地もそこそこに嬉しそうに、また誇らしそうにみんなの待つマットに走って戻り、もちろんまた大きな拍手を受けていました。

友達のやりようを見て学び、自分にもできると気持ちを強く持って自分からチャレンジした姿はとても立派ですし、先生も無理せず、お子さんの様子をしっかりとらえながら、指導支援を上手に行ってくれたと思います。
ただ見ていただけの校長も感動の時間でした。